

鳥取縣公報

昭和十五年二月二十三日
第一千百七號

金曜日

本書ノ大キサ國定規格A5判

縣令

◇鳥取縣令第九號

大正四年一月鳥取縣令第三號鳥取縣中學校學則中左ノ通改正ス

昭和十五年二月二十三日

鳥取縣知事 副 見 喬 雄

第九章附則中「第九章」ヲ削ル
第三十三條ノ次ニ「第十章境中學校ニ關スル特例」ヲ加ヘ左ノ二條ヲ加フ
第三十三條ノ二 境中學校ニアリテハ學科日中ニ支那語ヲ加フ但第二種課程ニ於テハ之ヲ課セズ
第三十三條ノ三 境中學校ニ於ケル英語及支那語ノ學科課程及每週教授時數ハ別表ノ二ニヨル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
別表ニ左ノ一表ヲ加フ

◆鳥取縣告示第百十號
 昭和十五年二月二十三日左ノ者ニ對シ動力糶摺業免許證ヲ下附セリ
 昭和十五年二月二十三日

免許證番號 住 所 氏 名

一、二五五	東伯郡南谷村五百六拾參番地	岸本隆義
一、二五五	東伯郡北河谷内村參百八拾七番地	佐々木榮

◆鳥取縣告示第百十一號
 產婆名簿登錄訂正者左ノ如シ

昭和十五年二月二十三日

鳥取縣知事 副 見 喬 雄

住 所 鳥取縣東伯郡旭村大字今泉六五七番地

昭和十五年二月九日附住所並開業地移轉ニ付キ產婆名簿訂正方出願ニ對シ昭和十五年二月十四日訂正

佐々木末子

◆鳥取縣告示第百十二號
 本年縣下ニ於ケル國有種牡馬ノ種付ニ關シ派遣種牡馬、種付所開閉月日種馬統制法ニ依ル牝馬檢査ノ場所、期日時刻等左ノ通決定ノ旨鳥取種馬所長ヨリ通告アッタリ
 昭和十五年二月二十三日

種 牡 馬 ノ 種 付
 鳥取縣知事 副 見 喬 雄

名稱	種牡馬ノ名稱	生産用區分	種類	年令	種付料	種付始終月日	所屬區分	摘要
本所	東伯郡成美村	初月小格鞍馬	中半	四	未定	三月十一日	種馬所	
倉吉	同 郡倉吉町	亭輪同	アノ系	七	同	四月三日	同	
大高	西伯郡大高村	安定同	アノ系	九	同	四月五日	同	
		愛香同	中半	一二	同	七月八日	同	
八郷	日野郡八郷村	英黎同	アノ系	六	同	四月二十八日	同	

米澤	同郡米澤村	グルメ	同	アノ	一三同	四月六日	同日
多里	同郡多里村	寶泉	同	中半	七同	四月十一日	同日
						六月二十九日	同日

備考

一 前記種牡馬又ハ他ノ道府縣ニ於テ供用セラルル種牡馬ノ種付ヲ受ケントスル種牡馬ニ付テハ配合検査ヲ行ヒ種馬ノ配合ヲ決定スルモノトス
 前項ノ種牡馬ノ配合決定申請書ハ正副二通配合検査當日検査場ニ於テ検査員ニ之ヲ提出スベシ
 二 配合検査ニ際シテハ優良種牝馬及候補優良種牝馬ハ指定證明書ヲ普通種牝馬ハ血統證明書ヲ持參スベシ

春期 配合 検査ノ場所及期日

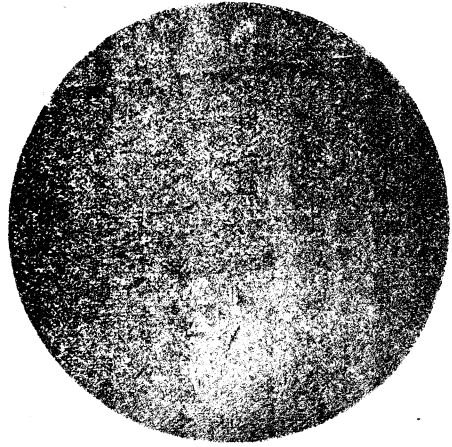
本所	名稱	位	置	検査期日	検査開閉時刻	摘	要
東伯郡成美村	種馬所構内			三月十一日	自午前九時 至正午		

倉吉	同郡倉吉町	倉吉種付所	三月二十三日	同	
大高	西伯郡大高村	大高種付所	三月二十四日	同	
大幡	同郡大幡村	家畜市場	三月二十五日	自午後二時 至同四時	
八郷	日野郡八郷村	八郷種付所	三月二十五日	自午前八時 至同十一時	
米澤	同郡米澤村	米澤種付所	三月二十六日	自午前九時 至正午	
多里	同郡多里村	多里種付所	三月二十七日	同	

正誤

昭和十五年二月十三日發行鳥取縣公報第一千四百四號登載鳥取縣告示第七十七號中鳥取縣立境中學校選抜實施期日三月廿四日同廿五日ハ三月廿四日同廿五日同廿六日ノ誤ニ付訂正ス

事變特報



舉國一致
盡忠報國
堅忍持久

彙報 第四十二號

00281

目 次

- 一 戰時經濟と工業の使命……………(商工水産課)一三頁
- 一 常會整備促進協議會……………(地方課)一九頁
- 一 米穀不安に對する政府の抱懷……………(規畫課)二四頁
- 一 昭和十四年米種作付面積……………(統計課)二八頁
- 一 紀元二千六百年記念公債と貯金……………(時局課)二九頁
- 一 結核と國民……………(衛生課)三一頁
- 一 「あへまき」の保存について……………(林務課)三四頁
- 一 小學校教員の聖地參拜……………(學務課)三五頁
- 一 軍國母子の姿 (承前)……………(社會課)三六頁

金の死蔵を止めよ

00282

告 諭

紀元二千六百年紀元ノ佳節ニ方リ 畏クモ優渥ナル詔書ヲ渙發セラレ臣民輔翼ノ道ヲ昭示シ給ヘリ洵ニ 聖慮宏遠恐懼感激ニ堪ヘザル所ナリ

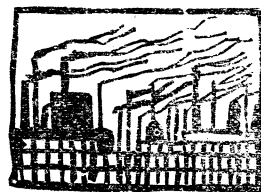
恭シク惟フニ 神武天皇惟神ノ大道ニ遵ヒ太祖ノ神勅ヲ奉ジ天業ヲ經綸シタマヒ萬世不易ノ丕基ヲ固メ一系無窮ノ寶祚ヲ傳ヘタマヒテヨリ皇統連綿トシテ茲ニ二千六百年列聖艱難ノ先ニ立タセ給ヒテ宏遠ナル皇謨ヲ恢弘シタマヒ仁愛ノ化下ニ洽ク蒼生ヲ惠撫シタマヒ兆民相率キテ奉公ノ誠ヲ效シ皇基彌々堅ク寶祚益々隆ニシテ今日ニ及ビ國體ノ精華燦トシテ世界ニ輝ケリ

今ヤ帝國ハ肇國ノ大理想ヲ以テ東亞新秩序ノ聖業ニ邁進シツツアリ事變勃發以來既ニ二年有半御稜威ノ下出征將兵ノ力戰奮闘ニ國威顯揚シ統後國民ノ至誠奉公ニ國力伸長シ着々戰果ヲ收メテ東亞ノ安定日支ノ提携將ニ其ノ緒ニ就カムトス然リト雖俄ニ歐洲戰亂勃發シ國際情勢複雜ヲ極メテ東亞ニ其ノ影響錯綜シ帝國遠大ノ理想達成ノ爲ニハ前途尙幾多難關アルヲ覺悟セザルベカラズ

此ノ秋ニ當リ縣民ハ 聖旨ニ恪遵シ時局ノ認識ヲ深メテ戰時生活ヲ推進シ國民精神ヲ昂揚シテ嚴ニ荒怠ヲ戒メ銃後々援ヲ強固ニシテ舉國一致ノ實ヲ擧ゲ業務ニ淬勵シテ國力ノ充實發展ヲ期シ質實剛健克ク時艱ヲ克服シ以テ臣節ヲ盡サザルベカラズ是レ國家ノ興隆ヲ致シテ國威ヲ宣揚シ上歷朝ノ御聖德ニ對ヘ奉リ祖先ノ遺風ヲ顯彰スル所以ナリ今回圖ラズモ大詔ヲ拜シ内閣亦國民ノ嚮フ所ヲ告諭セリ官民宜シク決意ヲ新ニシ和衷協力 聖旨ニ副ヒ奉ラムコトヲ期スベシ

昭和十五年二月十六日

鳥取縣知事 副 見 喬 雄



戦時経済と 工業の使命

□戦時経済の意義

戦時経済と云つてもその意味は廣範圍に亘る問題であるが、貿易およびそれに關連せる一、二の問題が最も必要である。昭和十四年十月上旬迄の貿易によると、貿易の總額五十二億二千八百萬圓、輸出二十八億二千九百萬圓、輸入二十三億九千九百萬圓、差引四億二千九百萬圓の輸出超過になつてゐる。十三年一月から十月上旬までの計數をとつて見ると、輸出入合計四十二億七千五百萬圓、輸入超過六千六百萬圓、昭和十二年は一月から十月上旬までに輸出入合計五十八億三千四百萬圓、入超七億三千六百萬圓の數

字を示してゐるのである。

この戦時経済においては一方に於いては大なる戦争を繼續し、又それと同時に東亞の新秩序建設のために生産力の擴充、軍備の整備といふことが起つて來るのであるが、この目的を完遂するためには外國から必要な資材を多量に購入することは免れないのである。昭和十二年は七月支那事變の勃發以來六ヶ月の期間があつたのであるが、この年の貿易は一ヶ年を通じて六億三千萬圓の入超であつたのである。昭和十三年一ヶ年を通じて四千萬圓の出超であつた。そして十四年は十月上旬までの間に四億三千萬圓の出超である。既に昭和十二年度は多額の輸入をしたのであるが、貿易といふものは入超になるほど資材を購入すれば金を拂ひ、その反對に出超になれば金を受取るといふ性質のものである。昭和十二年の六億三千萬圓の入超に對して支拂つた金額は八億六千萬圓であつた。六億三千萬圓の貿易入超に對して八億六千萬圓の金を送つたといふと、その間に二億三千萬圓の差額があ

るこの差格は一體何處からくるのかといふと結局は滿洲である。滿洲とわが國との貿易は、今日純粹な貿易ではないのである。

金は昭和十二年において一匁五圓に計算して五億三、四千萬圓あつた。これが昭和十二年の三月から圓を送り出して、この戦争の始まつた當時には四億數千萬圓の金があつた。これを昭和十二年八月に一匁十三圓としたのである。一匁五圓を十三圓にしたのであるから約三倍の十二億圓程の金があつたのであるが、それに毎年の新産金が加はつてくるのである。一ヶ年の新産金は今日どれ程産出されてゐるかは未發表であるが、昭和十六、七年頃に約五億圓の金があるが、朝鮮その他から産出される豫定である。

□日本の戦時経済の強靱性

外國では日支事變に對して、支那が勝つか、日本が勝つかといふことが、しばしばいはれ、又考へられて居つた。武力戦争において支那が

勝つと思ふものは世界中に一人もゐない。たゞ經濟力において日本が勝つか支那が勝つかといふことで疑ひを持つてゐたものが相當あつた。

日本はあれだけの圓をもつて戦争を始めた。しかもその戦争は長期に亘つて繼續して行かねばならない。僅かな圓を持つて戦争を始めたから、六ヶ月もしたならば外國から資材の購入が出來なくなるだらう。日本の工業力といふものについて、諸外國ではこんな辟目で見つてゐたのである。それだけの工業力を以てこれ程の大戦争を繼續されるものではない。早晩行きつまるであらうと、日本の經濟力について大分疑問を持つてゐたのである。

従つて日本が日露戦争、または近く關東大震災にイギリスやアメリカで額面百ポンドで發行した公債の賣値は、九十ポンドで四分利、五分利その他各種の公債であつたが、戦争が始まるまでは、ほと發行價格程度の時價があつたので

ある。戦争が始まると日本の外國において發行した公債は漸次下落し、ついに三十ポンド、即ち約三分の一、場合によつては二十三ポンドほど即ち額面の五分の一程度まで落ちたことがあつた。これは結局日本の經濟力に對して疑ひを持つてゐた爲である。けれどもその後今日まで、わが國は依然として戦争を繼續し、戦争に必要な物資は買ひつゝ、聖戦を繼續して居るのである。しかしながら事ここに至るまでには政府においては勿論種々なる對策がとられたのであるが國民も生産配給、消費の生活の全分野に亘つて夫々變動を受けてゐるのである。

ではかゝる長期に亘つて戦争を繼續するには貿易に對して如何なる對策をとるか、それは結局輸入を打ち切り、必要な品物だけ輸入する。不要不急な品物は輸入を禁止する。かゝる對策よりほかにない。従つてかゝる見地について各種の輸入制限即ち輸入の減少を圖つてゐるのである。

□輸出振興策

その貿易政策として新にとられたものに輸入リンク制がある。その一例は棉花である。これは一應輸入するが、輸入した棉花は總て輸出する。軍需及び特別に必要なもの以外は全部輸出する。かゝる連環組織によつて貿易尻の悪化を防止してゐる。この結果が顯はれて、十二年の十月上旬には實に七億三千萬圓の輸入超過であつたものが、十三年は六千六百萬圓に激減し、更に十四年には反對に前述の如く、輸出超過にはなつたのである。一般に戦争の進行につれて貿易状態は逆轉し勝ちなものであるが、わが國の貿易は戦争の進展に伴つて、寧ろ非常な勢をもつて向上しつゝあるといふことは刮目すべきことである。この貿易の向上があればこそ、今日までわが國の經濟力が微動だにせず、強靱な力をもつて事變遂行に驀進しつゝある所以である。

□圓ブロックと第三國向貿易

昭和十三年の貿易は四千萬圓輸出超過であつた。従つてその出超分だけ金を受取り得るので

ある。しかし十三年は戦争を繼續すると共に、北支に中國聯合準備銀行を起して銀行券を發行した。この貿易關係は滿洲國に對すると同様になつたので、北支方面に對する輸出は純粹輸出でなく、金を受取らない輸出であり、又輸入した場合金の出納は行はないのである。又上海方面における貿易も軍票その他總て内地同様の決済方法である。

従つて實際に外貨が受取れる貿易をみるに、十三年の貿易においてはむしろ相當の輸入超過となつてゐる。表面は出超といふが、そのうちで滿洲支那の所謂日滿支ブロック内の輸出を除外して、第三國との輸出入に於ては、なほ五億圓近い輸入超過である。

この輸入超過に對して、大體において新産金即ち新しく産する金を外國に送つて決済してゐる。昭和十三年は幾ら送つたか、青木藏相は關西銀行大會の演説において、十三年の金現送額を六億六千萬圓と發表せられてゐる。

□貿易尻好轉顯著

更に又、昭和十二年の貿易額と十三年の貿易

額を比較すると、十三年は非常に減少して來た。就中輸出の數量が全體に減つて來た。たとへ輸入超過の額は減つても、輸出の總額に減少して來ると外國から必要な物資が充分に購入出來ないので、輸出總額の減少は極力防止せねばならぬ。十三年六月は外國爲替基金を設置して輸出する原料を出來るだけ多く輸入せんとしたのである。即ち輸出したところの金をこの爲替基金の中に入れて原料を購入し、その原料で製品を作つて輸出する。その金は再び基金の中へ繰入れる。かういふ組織にしたのである。

しかしながらそれには金が必要であるが、他より受取るべき金がないから、日本銀行準備金のうちより三億圓をさいてアメリカに現送し、その金によつて原料を買つて輸出の振興を圖らうといふのである。十四年の輸出状況は十三年に比べると相當増加してゐる。即ち十四年十月上旬までに四億三千萬圓程の出超を見てゐる。四億三千萬圓の出超を十月上旬までに見たといふことは殆んど前例を見ないのである。かくの

如く貿易は向上して來てゐるのである。

□第二次歐洲大戰の影響

この貿易の向上には、主としてヨーロッパの情勢不安、戦争勃發といふことが原因となつて、相當の増加を來してゐることもあるが、わが官民のなみ／＼ならぬ努力の結果である。

先般イギリスの商務官であつた某氏が、一九三八年の世界金融に就いての著書中日本の戦時貿易について、「われ／＼の考へてゐたことより遙かに増加しつゝあることは實に驚きに堪へぬどころである」といふことを書いてゐるが、この中には幾多の不利不便のうち「貿易伸長に寄與された民間各位の御努力が多大であることに思ひ至つて感謝に堪へぬものがある」。

この四億三千万圓といふものは純粹の輸出超過でそのまゝ金が受取り得るかどうか、即ち圓ブロック地域の貿易も加算されてゐるので、外貨獲得まで達し得るかが問題である。輸出は總體で二十八億圓もあるが、圓ブロック方面への輸出が多い。十月上旬までの外貨貿易統計は四

億三千万圓の輸出超過であるが、圓ブロック以外の國との貿易勘定は相當多額の輸入超過となつてゐるのである。たゞ昭和十二年から比較してみると餘程良好になつてゐる。一方また國內に於ては今日なほ相當又金が産出しつつあり、又一面において民間側から集められた金は最初豫定したより相當多額であつて、十四年七月一日の申告を控へて、六月中に日本銀行に送られた金は相當に上つたのである。

この金と新産金は今後も引續き輸入物資の代金となるものと思はれる。人によつては「既に日本には金といふものはなくなつてゐるのではないか。日本銀行には最早や金がなくなつてゐるのではないか」斯ういふことをいふ人がある。私は在官中度々の講演等の際かかる質問を受けたのであるが、「金が一文もない、金を一文もなくしてしまふといふことであれば、こんな所で演説をしてゐるごころの騒ぎではない。さういふ御心配は御無用でございます」と述べたのである。昭和十三年アメリカに送つた三億圓の

爲替基金はなほ運行しつゝある。

□公債發行とその消化力

今日の公債の發行は、一ケ年に六十億圓位が發行されてゐる。六十億圓の公債はこれは日本に取つては莫大なものである。明治の始めから明治四十五年迄、大正十五年迄、昭和の五年間合せて六十五年の間において發行され、昭和五年末に溜つた公債の額は六十億圓に上つたのである。六十五年間に發行した公債は六十億圓、しかるに今日はその六十億圓に該當する公債を一ケ年に發行するといふやうな非常に大きなことになつてゐるのである。

外國ではわが國が多額の公債を發行して戦争を何時まで繼續して行けるかわからない。日本の經濟は行詰るであらうと考へてゐたのである。しかるに事實はどうか、十月上旬までに三十八億圓の公債を發行してゐるのであるが、この公債も近く全部消化される見込で、現在は九十九%消化されてゐる状態である。それ故公債の消化は極めて順調に行はれてゐるのである。もし

公債が消化されないといふことであれば、これは色々な點から經濟界に非常な悪影響を齎らす物價騰貴その他色々な點に悪影響を齎らすものであるが、幸に今日多額の公債は極めて順調に消化されてゐて、支那事變以來既に約九十五億圓の公債を發行し、八十五億圓程の公債が消化されてゐるのである。日清戦争の如きは二億圓の金で済んでゐる。今事變と比較すると約半月分の金額である。なほ日露戦争は日清戦争と比較するとそのスケールに於て大なるものであつたが、それでも十五億圓ですんでゐる。即ち今日の二ヶ月半から三ヶ月分に相當する。

今次の戦争はそれ程多くの軍費を要するのである。それにも拘らず公債の消化が順調であるのは、國民が打つて一九となつて進んで來たからこそ、日本の經濟は變化なく、また支那において既に各種の經濟開發が起りつつあり、この磐石の如き經濟力は、ひとへに國民一致協力の賜である。

□工業建設時代

今日において東亞新秩序の建設からいつても重要なものは工業の普及開發である。即ち現在新東亞建設のための生産力擴充、その他輸出の問題は凡て工業に密接不可分の關係にあり、従つて工業の使命は益々重大であるのである。これだけの多額の公債消化の問題や、また増税の問題等々總ての問題を解決するに當り、工業の發達といふことが最も大きな影響力を持つてゐる。

例へば一八一五年にイギリスはウオーターローの戰においてナポレオンを破つた。その際イギリスは過去二十年間のフランスとの戰爭の後始末を顧みると公債は七倍になつてゐる。税は三倍になつた。この重い負擔をもつて將來何うして切り抜けて行くか、これは當時の工業界の人々の頭を悩ました問題であつたが、工業界の發展のため、大英帝國發展のため、あらゆる困苦を忍んでやつた。その間において今日の大英帝國を建設し、又工業に於ては色々な發明があつて今日の如く發達して來たのである。

物資の大部分を海外に仰ぐわが國においてはひとり輸出の問題、輸入の問題のみならず、戰爭を長期に亘つて繼續して行くには、また殊に今日のやうにヨーロッパが戰爭状態にある時、物資の不足は免れ得ないのである。かゝる物資の不足の場合に代用品が考究され發明されるのである。即ちその民族が優秀であるだけに、困難に逢着するとその打開策を講じ、而してその活路を見出し、それと同時に發明もされるのである。

要するにこれは國民の覺悟と決心を固めてこれを乗り切らうといふことであれば、必ず乗切れるものである。幸ひ日支事變も戰闘時代より建設時代へ這入つて着々その成果をあげつゝあるから、國民として、否産業人として工業關係者の協力を期待して己まない。(前大藏大臣石渡莊太郎氏昭和十四年十月講演要旨)

.....x.....x.....



常會整備
促進協議會

本縣に於ける常會は從來自治振興、經濟更生教化進展等の氣運によつて漸次増加して來て居るけれども、縣は其の設置並びに指導獎勵の基準として昭和十一年十二月通牒を發し、又昭和十二年七月冊子「常會に就きて」を刊行配布すると共に、全縣下に之を普及せしめる爲各種の方途を講じて來たのであつた。

偶々今次の支那事變が勃發するに及んで國民精神總動員、銃後後援、生産力擴充、貯蓄獎勵金集中、物價物資の調整等重要國策の徹底上の必須方策として常會の設置普及、並びに活動を特に提唱せられるやうになつた。しかし縣下の實狀としてはなほこの常會の設置が普及してゐ

ない地域があり、其の實績も充分と云はれない傾向にあるので、今回急速に昭和十四年度内に之が整備普及並びに強化を圖ることとし、本月十三日鳥取市、十四日倉吉町、十五日米子市に最寄りの市町村長、小學校長、農會長、産業組合長、其他常會に緊密なる關係を有する者を會し、常會整備促進協議會を開いて協議したのであつた。左に當日行はれた司會者の挨拶要旨を記す。

本日茲に皆様の御會同を煩はし常會の整備促進協議會を開催するに當り、主催者側とし一言御挨拶致したいと存じます。本年は恰も紀元二千六百年に當り宏謨深遠なる 神武天皇建國の御創業を偲び、悠久二千六百年の光輝ある歴史を追想致しますと共に、八紘一字の御精神を廣く中外に顯揚し、一億一心天業の恢弘に翼賛し奉ることを誓ふ次第であります。

今や支那事變は第四年を迎へ、御稜威の下皇軍の武威は支那全土に汎く、反共親日の新中央政府の誕生も近からんとし、事變處理も建設の

段階に向つて新しき一步を踏み出さんとして居るのであります。又吾國を周る國際情勢は、歐洲戰亂の進展に伴ひ益々複雑に、其の東亞に及ぼす影響は愈々重大性を加へつゝあります。

翻つて國內事情を顧みますれば、事變勃發以來、銃後國民亦深き時局認識の下に舉國一致奉公の誠を致し、國策の遂行に協力して參つたのであります。然しながら東亞新秩序の建設は其の期する處高遠にして固より至難の業でありまして、事變の長期に伴ひ堅忍不拔、資實剛健の氣風を愈々更張振作すると共に、一億一心眞に舉國一致の態勢を整へなければならぬのであります。

最近物價統制、物資の需給調整等の問題に關し、國民の一部に或は時局の眞意を解せず、私利私慾に趨り國策の圓滿なる遂行を阻碍する者あるは誠に遺憾でありまして、かゝることは時局に對する國民の理解が未だ充分徹底してゐない證左であらうと思ひます。そこで國民の一人一人に徹底的に時局を認識せしめ、舉國一体綜

合國力の發揮を期するためにはどうしても常會の活動に俟たねばならないのであります。

常會と申しますのは、要するに日本精神を基調とした理想郷土の建設を目的として居るのであります。由來吾國民は家族制度を中心として一部落一家の如き極めて輯睦した社會生活を營んで來たのであります。吉凶禍福に當り喜びを共に悲しみを頒つは勿論自治、經濟、年中行事其他凡ゆる社會生活が郷土聚落の中に温かい家族精神に繋つてゐたのであります。

この家族精神を基として部落生活の中に自然發生した數多の會合には、或は信仰と結びついた伊勢講とか觀音講、念佛講の如きものもあれば、經濟上の目的を持つ頼母子講、無盡講或は同業組合の如きものもあり、更に又行政上の目的を以て集る會合等種々あつた譯であります。之等は何れも或る一つの目的に偏つて居り、一村一部落としての纏りがなく、自治國民的生活としての共同的目标、指導精神が明かでなく、又其の組織化が行はれてゐたのであります。從

つて家族制度の弛緩、個人主義思想の發達と共に之等の寄合は次第に衰へ、偶々部落に重要問題が起り、會合を開いても各自が自己の利害を打算し、部落全体の共同目的達成といふことを忘れ、遂には一種の議論場になつてしまふといふ有様になつたのであります。

明治の中頃町村制を布くに當つても、此の古い由緒ある會合といふものは顧みられなかつたのであります。即ち部落を綜合して一つの會合町村會を作り、部落と部落との融和を圖るといふ方面に重きが置かれ、之等部落の非公式の會合が、其の指導、運営の如何に依つては町村經營上極めて重要な役割を果し得るものだといふことに氣が着かなかつたのであります。

そこで今日市町村行政の實際から見ても、其の缺陷の一つとして指摘せられますことは市町村民を指導教化する方法、組織が缺けて居るといふことであります。例へば選舉の如きにしても投票する各個人は投票に關する根本的意義に就て指導とか教育とかを受けたことがないのであ

ります。このことは或は行政の全般を通じて言ひ得ることでありまして、物價物資の統制にしても、國民精神總動員運動にしても、それがうまく行はれないのは結局其の趣旨が充分徹底しない爲であります。

最近常會の整備普及が喧しく提唱せられますのは、何も新しいものを拵へるといふことではなく、今申しましたやうに、昔から吾國に行はれてゐた協議懇談の寄合を組織化し、目的を明かにして部落民の指導教育の一方法とすること以外ならぬのであります。

常會をはじめ組織化し、之を活用致しましたのは二宮尊徳翁でありまして、二宮先生は今日の所謂更生計畫を實行に移す場合必ず其の根本を心田の開拓に置かれ「荒地の開拓は心田の開発である」とし、村民全体を集めて計畫の目的、内容を徹底的に理解させ、決意が出来た上で愈々實行に取り掛つたのであります。其後は毎月一回以上例會を開き實施の經驗に基いて隔意なき意見の交換や今後の進歩に就て協議を行

ひ、一致協力目的の貫徹に誘導せられたのであります。先生は之を「芋こち」會と稱して居られたとのことでありますが、この「芋こち」とは桶に芋を入れて洗ふ場合、芋と芋とが相互に摩擦し、芋の皮が剥ぎとられるのになぞらへて名稱づけられたのであります。この「芋こち」に依つて相互の啓發、教化が行はれる譯でありまして、常會の目的は社會生活の單位としての部落、其の部落に於ける生活を、家族生活に於けると同様にお互に扶け合ひ、指導し合ふやうな生活たらしめることであります。言ひ換へれば一軒の家のやうな心持を部落に醸成せしめる事です。更に之を大きく申しますならば、日本精神を先づ部落へ實現しようといふことが常會の目的なのであります。この一部落一家の精神は更に之を市町村に擴充し、一圓融合、舉國一体の態勢へ整へなければならぬのであります。部落生活、自治生活が眞に日本精神の具現であり、部落民としての生活が同時に又國民としての立派な生活であり得るためには、單に部落民

の和合、部落間の親睦を以て満足すべきではなく、常會によつて上意の下達、民意の暢達が行はれ、行政上の趣旨が部落民に充分徹底し部落民としての生活が即ち國民としての生活となり國民の一人一人が國策の趣旨を理解し、進んで之に協力するに至らねばならないのであります。常會は以上の如き使命と機能とを本体として居るのでありますから、常會が組織され其の運営宜しきを得ましたならば食糧充實、貯蓄獎勵金集中、廢品回收の運動等が所期の成績を收め得ると共に生産力を擴充し、經濟統制違反の絶無を期する等克く國策に隨順し、舉國一体の態勢を確立し得ることを信するのであります。又市町村行政の上から見ましても、常會が立派に行はれ、役場當局の考へが町村民に徹底致しますならば、市町村の經營が非常に樂になることは勿論でありまして、從來の實績に徴しますと常會の整備せられて居る市町村は例外なくうまく行つて居るのであります。常會は市町村經營に於ても亦必要缺くべからざるものと稱し

ても過言ではありますまい。

縣下に於ける常會の普及状況は只今調査中でありますが、昨年七月現在の調査によりますと一六九ヶ市町村の中、毎月定期的に市町村常會を開催するもの二二、必要に應じ年内數度開催するもの七六、計九八に達し、部落、町内常會に就ては縣下一〇八九部落中、毎月定期に開くもの五七七、毎月でなくとも必要の都度開催するもの六八二、計一二五九に達して居るのであります。現在は之より遙かに整備普及して居ることと思ひます。

今や吾國は逼迫せる國際情勢の中に處し新東亞建設の大事業を遂行せんとして居るのであります。この大業を完遂するためには、國策の示すところを國民に周知徹底せしめると共に、相互教化の實を擧げ一圓融合、眞に國家の總力を發揮せねばならないのであります。常會の整備普及は現下喫緊の要務であります。然しながら常會は其の會合が定期的に而も繼續して行はれて初めて其の機能を發揮し、使命を達し得る

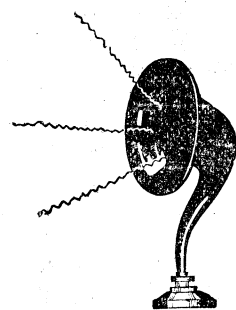
のであり、それは結局のところ部落民、市町村民を指導する立場に立たれる皆様の熱意と特別の工夫に期待しなければならぬのであります。皆様に於かれては時勢を洞察し、新東亞建設の大業を翼賛し奉るべく、常會の整備促進並に強化に一段の御努力あらんことを切望して已まない次第であります。

× × × × × × × ×

素すな統制

興亞の歩調

00295



米穀不安に對する 政府の抱懷

昨年旱害等に基を發して國內には米穀に對し、非常なる不安を醸出し、各所に賣積み、買溜め等をさへ生ずる傾向も出來て、大都市等では種々困難な事情をも見たのでありましたが、此の問題について去る二月十二日、農林大臣は議會に於ける質問に對して次のやうにその抱懷を述べられたので、左にその演説を抄録します。

米に對する國民の不安の感情と云ふことは誠に遺憾なことでありませうけれども、是は昨年の

米作の狀況、即ち朝鮮に於ける非常な旱害に因る減收、尙内地殊に中國地方に於ける極めて程度の深い旱害の影響が、非常に國民の神經を刺戟して居ることは申す迄もないのであります。凡そ米に關する種々の災害中旱害の關係から來る所の人心の焦燥氣分と云ふものは、農作に直接從事して居る者に非ざれば其の感じを味ひ得ない程深いのであります。此處に申すまでもなく旱害に困る場合に於きましては、水が切れて居る方面に於ては收穫皆無であります。又植えてある稲が皆枯れてしまふ。其の傍にある水の手當の利いて居る田に於ては其の逆に非常な豊作である。是が農民の頭に非常に強く響き、從つて水害、風害、冷害と云ふやうな場合と共に人心の上に深刻なる影響を及ぼすものである。農民の感じから申しますと、自分の植えてゐる稲は丁度自分の子供のやうに考へて居るのであります。其の自分の育て植えて居る子供が、一方は水が切れ上がつて植付が出來なかつたり田が枯らなつて居り、植ゑたものが枯れて居る。

00296

其の一方には水のある處は青々として非常な勢で生長して、平常の三割五割も非常な農作の狀態を呈して居ると云ふ時に、其の農民の感情は想像の付かない程深刻のものである。そこで此の旱害の影響と云ふことが人心に及ぼすことは是は政治に關係する者としましては、深く考へなければならぬことと思ふのであります。

しかも古來の言傳へに依りますと「旱害の時には凶作なし」といつてゐますが、昨年の米の狀況を見ますと、矢張り古來の人の言傳へて居る事柄と云ふものは事實である。中國方面に於ては合計すると六百萬石、七百萬石にも及ぼうと云ふやうな旱害に因る大減收があつたに拘らず全國を通じて見ますと、一昨年の收穫高よりも更に百萬石の増收を來して居る。尤も朝鮮の旱害は、是は内地の事情と大いに趣を異にしてゐる事情がありますけれども、内地に於ては古來古老の傳へて居る所が此の實を現して居るのではありません。左様な次第でありまして、内地に於ては米の不足はない。寧ろ豊作なのであります。

然るに人心が米に付て非常な不安を起して、さうして或は憂ふべき所謂「ブロック」の形となり、俗に謂ふ封建制度の、縣々に依つて防穀令を布くと云ふ、さう言はれる様な實情が生じたと云ふことは、是は所謂旱害と云ふことの民心に響く影響の如何に深いかと云ふことを示して居るのであります。斯様な點から米に對する不安と云ふことが事實として起つて來て、今日案外米作は良くて大体不足はなく、酒造米其の他節米を行へば相當の剩餘米が出來て、昨年に下らざる分量が持越米として持つて越せると云ふ確信が出來て居ると申しましたも、尙そこに色々な點から不安が除かれずに居ると云ふことは甚だ遺憾なことでありませう。

或は米の不安や先の見越しから米を匿して持つて居る、或は賣積みをするなど云ふやうな方面に對しては……賣積みと云ふ言葉は用ひたかないのであります。退藏して居る……この事に付きまして普通には唯農家が賣積みをするなど申しますけれども、この點に付ても一言述

べて置きたいと思ふのでありますが、農民が米を作つて、さうして作つた米を俵に入れてこれを持つて居ると云ふことは、それが假令非常に高價に賣れる場合であつても自分の作つた物を此處に置いて置くこと云ふ、そこに農民の非常な慰安があり樂みがあるものであります。之を金に換へれば四十圓になる、或は何圓になる、斯う云ふことを云つても其の金が現實必要なことが生ずる場合の外は、成るべく米を俵にして積んでそれを見て居りたい。斯う云ふ気分は、是は農村の實際に付て百姓をし、自分がやつた經驗の無い人では想像の出来ない執著を持つて居るものである故に「農民が懐工合が好いから米を賣措みする」斯様な言葉を以て此の農民の態度を評することは出来ない。少しでも餘裕があれば米を一日でも一月でも手許に置いて置きたいと云ふ気分が農民の共通した心理状態であると云ふことを考へなければならぬと思ふのであります。しかしかうした方面に對しては、之が出荷の奨励を爲し勸誘を爲して、さうして「大消費地

或は米の出來高の少い府縣、地方に對して米を送り出してやるのが國家の爲に必要である。それが又農民が農作をする所の天分を果す所以であると」と云ふ意味をよく了解するやうに致しますれば、食ひ餘る米であり、或は混食代用食と雖も農民自身は自分が持つて持つて居る物を代用するのであるからして、さう云ふことも出來易いのであります。従つて都會の人に節米をし混食をし或は代用食を奨励することも必要であるが、之を實行する上に於て最も有效適切に此の勸誘に應じ得るものは矢張り農民であるから、「持つて居る米を都會に出して、あなた方は此の國家の爲に自分の作つた米を食はぬことは氣の毒であるけれども、又他の混食になる、代用物になる物もあるのだからして、さう云ふ物を出すやうに」と云ふことの理解がよくつきますれば、我が國の農民は決して一俵二俵の米を退藏して、國家の國策に應じないやうな態度を執ると云ふことはないと思ふのであります。

米の絶對數量と云ふことについて既に不安がないと致しますならば、それから先は施設宜しきを得て、全國協力してやることになれば、六大都市を始め大なる消費地に對する米の供給に付ては不安は除去される。除去されるのではない初めから不安はないも考へて居るのであります。唯今日この米の不安と云ふことは、不安といふことが延いて食糧所謂に對する問題となりまして……、斯様に申しましても初め申しました如く、米に付ては絶對安心であるから、いくら食ひ放題やつても宜しいと、斯様な意味に固より考へられることのないやうにしなければならぬと思ふのであります。

即ち昨年の持越米四百六七十萬石、本年の内地主産六千九百萬石、朝鮮千四百萬石、臺灣千萬石之を合して大凡九千七百萬石、之に對して消費の方面から、外國に對する百萬石（是は第三國に對する輸出であります）、北支、滿洲に對する移出、是等を加へて九千五百萬石、斯様な數字に考へて、尙之に外米の輸入越と云ふこ

さを考へますれば、そこに數百萬石の持越米の數量を考へ得るのであります。その點から此の需給の上に不足無しと云ふことを確信して居るのであります。此の消費數の見込と云ふことに付きましては、前年度前々年度の消費の關係等。又今年度の米の配給需給に付ても窮屈な事情がありますので、御承知の如く酒造米に付て百餘萬石を節約し、其の外七分搗の奨励、或は混食代用食の奨励と云ふやうなことを實行する意味から致しまして相當なる節米を見込んで居り、又豊作に因る或地方に於ける自然に米の消費を殖やすと云ふやうな原因も併せ考へまして、大體に於て内地に於ける消費を大凡七千六百萬石程度、朝鮮、臺灣千八百萬石位を見込を立てまして、此の需給の數量をやつて居るのであります。假に此の消費の數量が、節米が充分徹底しない爲に成績が不成績であつたと致しまして、尙此の需要の方面に對する供給の分量と云ふものに付ては、多少の餘裕のあることを見ること出来るのであります。本年の

00299

需給に付ては心配はないと信じて居るのであります。

× × ×



昭和十四年 菜種實收高と 昨秋の作付面積

本縣に於ける昭和十四年の菜種實收高は一五、四六六石であつて、昭和十三年の實收高に較べると三五三石(三分三厘)減つてゐるが、更に作付反別は九六九町で前年より一五〇町(一割三分四厘)を減じ、之と反對に價格は前年より五五、六一〇圓(一割六分一厘)増加して四〇〇、〇四三圓となつてゐる。之は價格昂騰に依るための増加である。

尙ほ昭和十四年各郡市別の實收高を示すと次の如くである。

郡市別	作付反別		實收高	價格	増減(△印減)	
	町反	石			付反別	前年實格に比し
總數	九、九〇	二、五、四六六	四〇〇、〇四三	△一五、〇	△五、三	五、六〇
鳥取市	三〇、七	四三〇	一〇、七五〇	△一、九		六、二〇九
米子市	一四、四	二九三	六、八〇九	△二、〇	△三、八	△五、三
岩美郡	二八、三	三六六	一〇、二七六	△一、四	△二、九	△三、九
八頭郡	五、四	八九六	三、三六六	△一、二	△九	四、五
氣高郡	八四、八	一、三〇	三四、一九四	△三、八	△九	四、一四八
東伯郡	五、五	一九、二九	二、八二六	△三、七	△六	六、九七五
西伯郡	一八、一	二、九三〇	七、五〇四	△五、〇	△四、六	七、〇三六
日野郡	九、三	九三	二、三五六	△三	△五	△三五〇

更に昭和十四年秋の作付面積は、本年一月十日現在の統計課調査に依ると九六五町七反歩であつて、之を昭和十三年の九六九町七反歩に較べ

00300

ると三町三反歩(三厘)の減少を示してゐる。之は播種期に於て未曾有の旱天が持續したために發芽を害せられ、作付不能となつたものがあるためである。

各郡市別の作付面積は次の通りである。

郡市別	昭和十四年作付面積		同十三年作付面積		前年比増△減
	町反	石	町反	石	
鳥取市	三〇、三	三〇、三	三〇、七	△	町反四
米子市	一八、六	一八、六	一四、四	△	四、二
岩美郡	三、二	三、二	二、二	△	七、〇
八頭郡	六四、四	六四、四	五、四	△	六、〇
氣高郡	九二、六	九二、六	八四、八	△	七、八
東伯郡	五〇、五	五〇、五	五五、一	△	二五、四
西伯郡	一四九、六	一四九、六	一八、一	△	三六、五
日野郡	八、五	八、五	九、三	△	八
總數	九、九〇	九、九〇	九、九〇	△	三、三



紀元二千六百年

記念公債と

貯金

國を肇めてより二千六百年、茲に一億國民舉つて慶祝すべき意義深い年を迎へた。

私達は永い歴史の變遷の跡を顧み、又祖國と他の國々を較べて見るとき、必々日本に生れたことの幸福を感ずる。未開の國、戰亂の國、流離の國、壓制せられた民族、是等のものを顧みるとき、私達は「國家があつて初めて國民の幸福がある」と感せずには居られないのである。

今年はいかにも他の意味に於ても最も記憶すべき年である。今年程、我が國の國力が外に向つて伸びんとしてゐる年があるであらうか。支那事變第四年、我が國の國力は大陸に向つて急激

に進展してゐる。その全力は聖戦の一點に集中せられてゐる。この必死の努力は決して他のためではない。東洋の永遠の安定を確保するためであり、同時事に祖國を護るためであり、私達と私達の子孫の幸福を護るためである。私達は其のために尊い犠牲を拂はれた護國の英靈に對して心から感謝せずには居られないのである。聖戦の目的達成のためには今や國の總力は動員せられてゐる。生産力は高度に擴張せられ、國民は自己の生活の一部を割いて軍需の充足のために全力を捧げてゐる。然し、國の力が伸びんとする時必ずや抵抗を受けずにはゐない、私達は全力を擧げて我が國を護り、聖戦への妨害を排除しなければならぬ。

此の記念すべき年の最初の支那事變國債郵便局賣出しが二月十九日から三月一日まで行はれてゐる。此の國債は紀元二千六百年を慶祝するマークを捺され、記念封筒に入れて賣出されてゐるのである。(カットはそのマーク)

この際記念の支那事變國債を買求めて、我

が國力の伸張に力を添へることは、紀元二千六百年の記念として最も意義深い事と言はねばならない。この國債賣出の詳細については本報第四十號に記してある。

又二月十一日の紀元節から全國郵便局でこの佳い年を記念するに相應しい貯金として、月掛貯金、集金貯金、規約貯金、据置貯金の四種を勧めることになつた。月掛貯金と集金貯金にはそれ〴〵記念通帳を發行し、規約貯金と据置貯金には記念マークを貼付される。

吾々はこれ等の記念公債や記念貯金に依つて慶祝すべき意義深い皇紀二千六百年を一段と記念したいものである。

統制違反は
銃後の耻辱



結核
と
國民

△結核とはどんな病氣か

結核病菌は結核菌であるが、之は患者の咯痰に混じり空中に飛散し、この咯痰が乾いて埃となつて舞ひ上る時、空中に浮んで健康人に呼吸されて肺に達すると肺結核の感染を起すのであるから、結核は空中感染であるが、この感染は不潔な空氣の流む室内で起るから結核は大体住宅内傳染病と見て差支へない。しかし人体には幸ひに結核菌に抵抗する力があるから、健康な人体於ては何事もなくすんでしまふことが寧ろ普通である。

然し人体の抵抗力が弱つて結核菌が強いか、或は入つた結核菌が餘り多過ぎて取り押へ切れ

なくなると人体が負けてしまふのであるが、この人体と結核菌との抗争の間の一進一退が長くなるので結核は慢性傳染病と稱せられるのである。

人間の身體は又年齢に依つても結核菌に對する抵抗力が動搖する。第一に乳幼兒の時代は抵抗力が弱く、次に身體發育極に著しく抵抗力が低下するから二十歳前後に結核患者が多いのである。

△結核は治り易い

結核は不治の病の如く思はれてゐるのであるが、それは重症末期患者のみが結核として人目に曝されるので不治の難病の如く世人の目に映るのである。

ツベクソリンの薄い溶液を皮膚に注射すると結核征服者や現在結核患者は陽性反應(赤く腫れる)を示し、未だ結核の經驗のない者は陰性反應となるのであるが、都會生活者などで生後年を経るに従つて急激に陽性率を高め、小學校を終る頃は過半数となり、壯丁に達する頃には

大部分陽性となる實情である。しかし結核菌に侵された者が全部結核を發病するのでは決して無く、青年に就て檢べて見ても先づ五パーセント位の結核患者を發見するに過ぎないのである。元來ツベルクリン反應陽性患者は極めて輕いにしても結核患者であるか、或は嘗つてあつたかと思つて差支へないので、現在の都會青年は大體輕症結核の體驗者である云へやう。更に進んだ可なりの病状を呈した者でも全治した例はいくらかあるもので、結核患者は悪くなつて行く者よりも治つて行く者の方が遙に多いのである。

△結核豫防と日常生活

結核は早期に治療すれば決して難治の病氣ではないのであるが、しかし罹つてから治すよりも罹らぬ前に豫防することを主眼とせねばならない。

結核豫防の根底は日常生活の改善である。衣食住勤の四つに眞剣な注意を拂へば結核は大體豫防出来るものである。

衣の注意

防寒が不充分であれば感冒にもかゝり、感冒が結核を誘發したり、増悪したりすることもあるが、それよりもいけないことは皮膚を保護しすぎて鍛錬が不足し、却つて感冒に罹り易くなることである。襟卷や手套等必要以上の厚着によつて皮膚を弱くし、又皮膚の外氣への接觸を妨げるのは宜しくない。出来るだけ簡素な衣類をつけ、皮膚を冷氣、冷水等に觸れしめ、外温の變化にもよく耐へ得るやうな皮膚の鍊固が望ましい。寒暑を通じて薄着の戸外運動はこの目的に叶ふ。

住の注意

住居は衣服の延長なやうなもので、人体の保護上家屋は大切なものであるが、保護にすぎると却つて不健康の原因となる。

住の缺陷としては屋内の空氣が悪くなること日光が充分射入しないこと、濕氣が籠り易いことなどが挙げられる。敷地や構造が悪くて濕氣の多い家屋は恰も濡れた衣服を着てゐるやうなものである。又屋内の空氣はとかく埃、煙、水

蒸氣、炭酸ガス、一酸化炭素などで汚され酸素は缺乏し、更に結核菌の如き病原菌を含んだらして誠に不潔危険に働きやすい。このやうな空氣は結核を感染せしめるだけでなく、結核を悪化せしめる。又日光の十分射入しない屋内には病原菌も永く生きて居り、身體を虚弱にし、且室を不潔陰鬱にする。健康な自然は屋外にあるのだから、其の自然を屋内に誘導することが肝要である。又家の中に自然を入れると共に戸外に出て自然に親しむことも大切である。

食の注意

結核は動物食に傾く西洋人にも植物食を主とする東洋人にも發生するものであるから、乳肉過重のみがよいのではない。なるべく自然に近い食物を色々取り交へて適量に取るのを極意とするのである。

米で云ふなら精白米より七分搗米がよく、魚は頭、内臓、骨まで全部食ひ得る小魚の方がよいのである。雜穀、野菜、果實類も出來得る限り自然を損せず、あらん限り多種混用するがよ

い。野菜、果實も一部分は生で食へることも必要である。

勤の注意

日本人は勤勉な國民であるから概してどうかすると働き過ぎる傾向がある。或る程度までは働く程強くなる人體ではあるが、それにも限度があつて日本人の現狀は過勞に傾いて居ると思はれる。過勞は健康を害し、體力を弱め、従つて抵抗力を低下して結核の發病増悪を多からしめる。勤勞は固より美德であるが長期建設には之を統制することが必要である。

働いて疲れた身體を恢復するに必要なものは睡眠であるから、睡眠は十分とらねばならぬ。殊に結核感受性の高い青年期には睡眠と休養を適當に與へねばならない。

△結核のない國を目指して

體力向上の根底は結核豫防である。結核が豫防され撲滅されれば國民體力は必ず大いに向上し國力は大いに増強する。結核を豫防し得ないやうな國民の前途は繁榮

しない。我が國の結核豫防も準備時代が漸く過ぎんとしてゐる。あらゆる方面に於ても機既に熟し、結核豫防國民運動が新しいスタートをきらうとしてゐるのである。吾々の旗幟は結核撲滅に改めらるべきである。而して結核の無い國の具現を目標として邁進せねばならぬ。

先づ結核を除け。然る後に興國の途が拓かれる。



「あべの横」の保存について

支那事變勃發以來物資輸入制限の強化に伴つて、從來熱絶縁材料として輸入せられてゐたコルク材の缺乏が甚しくなつてゐる。
然るに幸にして我國に産するあべ横の樹皮は相當の絶縁性に富んでゐるから、之をコルク材の代用品として使用し、辛ふじて冷凍專業上絶對不可缺の熱絶縁材料の不足を補つて來たので

あるが、近來時局産業の進展、木炭ガソ自動車の勃興に因つて木炭の需要が増加して來て、その中にはあべ横が木炭材として伐採せられるものも尠くないのであつて、此のまゝに放置して置いては將來幾何もなく此の貴重な代用資源の枯渇を見るに到る憂ひがある。

あべ横は主として廣島、岡山、鳥取、島根の各縣及び朝鮮の咸北、江原各道地方に産し、其の樹皮の成長は拾箇年間に概ね一寸程度であつて、一度其の樹皮を剥ぎ取つたならば更にこのやうな長年月を経過しなければ、再び之が採收に適するやうにならないのである。

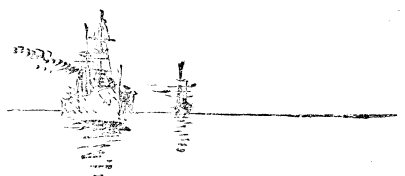
從來年産額は參百萬貫乃至四百萬貫、價格にして百五十萬圓乃至二百萬圓を産し、之を防熱或は防濕材として使用するのには、この樹皮をあらく碎いて強壓を加へて厚さ二寸乃至三寸、方二尺程度の板とし、蒸焼きして所謂「炭化コルク板」に製するものであつて、現在國産の絶縁材中最も効果的のものであり、凍結庫、冷蔵庫の建設並びに製氷其の他一般低溫工業上絶對

的必要の資材である。

然るに冷凍專業は軍需食糧の供給、水産物の輸出増進、並びに銃後國民の保健を養上缺くべからざる專業であるばかりでなく、政府も亦その獎勵に努めた爲、事變中特に盛んに内地及び滿支方面に勃興して來て、この資材の需要は益々増加の趨勢にあるのである。

今や事變は長期建設の段階に入り、輸入制限の強化が彌々大であつて、物資の自給自足の確立が益々急を要する秋、斯の様に重要にして他に得がたい資源を永遠に確保することは眞に緊急の事であると思はれる。

社団法人日本冷凍協會では、以上の趣旨から政府に對してこのあべ横の伐採を禁止もしくは制限するやう陳情してゐる趣であり、本縣でもこの樹皮採收状況について調査をしてゐるのであるが、關係方面に於ても、このやうに國家的大切な資源については充分注意し、濫伐等の事が無いやうにしてこれが保存に努められたものである。



小學校教員
の
聖地參拜

この度朝日新聞社では文部省後援の下に光輝ある記元二千六百年の奉祝に當つて、紀念事業として全國小學校教員（なるべく青年學校教員を兼ねる者）を選抜して、文部省航海練習船日本丸、及び海王丸で聖地參拜並に海軍訓練の實施をすることになつたので、本縣でもこれに參加することになつた。

この聖地參拜團員は全國二百人としてこれを四區に別ち、各區五十人外係員若干を各區毎に

00307

交替便乗するものであつて、全區で三月二十日より四月十五日まで二十七日間に亘るものであるが、本縣のコースはその第二區になつてゐてその日程は三月二十八日午前八時大阪で乗船して二十九日正午に江田島に着き、三十日兵學校を見學して三十一日午前八時出發途中、美々津岬に停船して 神武天皇御船出の聖地を拜し、四月一日正午宮崎着、宮崎神宮に參拜、それより歸縣する豫定であつて本縣ではこの參拜團員として左記五名を選抜して參加せしめることとなつた。

尙經費については該練習船乗船中の經費全部及び鳥取市より往復の練習船以外の汽車賃等總額の半額を朝日新聞社に於て負擔するものであつて残りの所要經費についてはなるべく本人の負擔を輕からしめるやう郡市教育會等にて配意することになつてゐる。

參 加 者 名

岩美郡宇倍野尋常高等小學校長 難波 信義
氣高郡豐實尋常高等小學校長 坂田 民藏

鳥取縣師範學校附屬小學校訓導 後藤 貞幸
米子市就將尋常小學校訓導 内藤 知明
東伯郡中北條尋常高等小學校訓導 小谷 徳幸



軍國

母子の姿

(承前)

「この時は苦しい御座いました。店のお菓子を入られる金もないのに、妹の里歸りの俵代も拂つてやらねばならず……」
と。そんなにしてスミさんは夫の兄弟の身の上を心遣ひした。これは夫が一身をお國の爲に捧げて、天皇陛下からいたゞいたお金を、兄弟たちの幸福の爲にも分けてやらねばならぬと云ふスミさんの真心の現れであつたのである。が、しかし、弟と妹の身の仕末をつけてゐたから

00308

とて、それで萬事が片づいたわけでは決してない。

父はぶら／＼してゐる。母は體が弱いから、神様の教を弘めて歩くと云つて毎日布教に出かけた。その小使ひも與へたり、衣類の世話もしてやらねばならぬ。商賣の方は町内の同情と、スミさんの親切な商ひぶりに繁昌した。とは云ふものゝそれで安心が出来るかと云ふ程にはなつてゐない。そこで二階に四五人の下宿人を置いたが、近所の工業會社に出勤する人なので、朝は六時までに御飯の用意をしなければならない。そんな下宿のことから、店の商賣、仕入れ、集金、その上に父母と子供の面倒を一身に擔ふスミさんは、朝は三時半か四時に起きて夜は十二時より早く床に就いたことはなかつた。

そのうちに母が教會所を建てた。その費用もスミさんの辛い財布から出てゐる。父も教會の方に移つたが、頭先から足の先までも身の廻り一切はスミさんが始末した。下駄の齒までも入れて持つて行つた。そればかりか父は食事が

やかましく、スミさんの手料理でなければ箸をつけないので、朝夕の食事は一々とどけたと云ふことである。

スミさんは毎日薪炭や米を積んで、百七十貫もの荷車を曳いて方々の得意さきに配達するのだった。家にあつても靜かに坐る間もない。たとへ暇があつても一日の働きで棒のやうになつた脚は、なか／＼曲らなかつたと云ふことである。

長女の千代子は、十三になつた時ふとした風邪が原因で心臓を患ひ、床について四ヶ月であの世の人となつたが、俊朗は氣立もやさしく健康に成長して、尋常四年の頃にはスミさんの手傳ひをするやうになつた。尋常四年と云へば遊びたい盛りなのに、朝は登校前に近所の配達を濟ませ、始業ぎり／＼に自轉車で學校へ行く學校が終ると誰よりも早く歸つて来て、それから又自轉車で配達に廻る、と云つても十二の子供では重いものは運べないので、米なら五升ぐらいづゝ分けて何度も廻つたと云ふことで